福童町遺跡 8

―福岡県小郡市福童所在遺跡の調査報告―

小郡市文化財調査報告書第 240 集

2008

小郡市教育委員会

序

小郡市においては、北部のニュータウン開発に伴う発掘調査に代表されるように、これまで数々の遺跡が発見されてきました。そしてそこからは、国の重要文化財に指定された「小郡若山遺跡出土多鈕細文鏡」をはじめ、全国的に著名な遺物が出土しており、郷土の歴史を今に伝えています。これらの遺跡のほとんどは、宅地や道路・工業団地などの建設すなわち都市開発に伴って発見され、発掘調査の終了後は工事によって姿を消しました。現在、その宅地に居をかまえ、日常生活で道路を使用する私たちは、記録された遺跡たちの往時の姿から、いにしえの人びとの生活を窺い知ることができるのみです。

今回ここに報告いたします福童町遺跡は、平成16年度以来、小規模ではありますが調査の成果を積み重ねてきた遺跡です。これまでの調査で、古墳時代から江戸時代にかけて連綿と生活が営まれてきたことがわかってきました。このような地道な情報の蓄積が、郷土の歴史をより身近なものとし、それを未来に伝える一助となることを願ってやみません。

最後になりましたが、今回の調査において地元西福童区のみなさまと、小郡市役所都市建設部まちづくり推進課には多大なご協力をたまわりました。記して感謝申し上げます。

平成20年3月31日
小郡市教育委員会
教育長　清武 輝

例　言

1．本書は小郡市福童字町に所在する埋蔵文化財包蔵地・福童町遺跡地内で計画された、小郡西福童3081号線道路改良工事に伴って実施された発掘調査の報告書である。
2．本書に掲載した遺構図面は、個別図面については調査担当者が作成し、調査区全体図・地形測量図については株式会社埋蔵文化財サポートシステム福岡支店に委託した。
3．発掘現場での個別遺構写真は調査担当者が撮影し、遺跡全景写真の撮影については有限会社空中写真企画に委託した。
4．巻末写真図版の遺物写真は有限会社文化財写真工房に委託した。
5．出土遺物の洗浄・復元には角野朋子・田鍋桂子・百嶋八千代の協力を得た。遺物実測・製図は調査担当者が行った。
6．本調査に関わる出土遺物・写真・カラースライド等は小郡市埋蔵文化財調査センターにて保管している。広く活用されることを希望する。

凡　例

1．本書で用いた北は座標北を基準とし、図上の座標は国土座標に拠っている。
2．本書で用いた標高は東京湾平均海水面（T.P.）を基準としている。
3．本書での土色表記は農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帳』1997年版』を用いて行なった。
4．本書の挿図においては下記の遺構略号を用いている。

土坑・落とし穴状遺構；ＳＫ　　ピット；ＳＰ
溝状遺構；ＳＤ

5．本書の挿図について特に記載のないものは、個別遺構図は40分の1、出土遺物実測図は4分の1で作成している。

本 文 目 次

Ⅰ．調査の経緯と経過・・・・・・・・・・・・・・・・・1
（１）調査の経緯
（２）調査の組織
（３）調査の経過
Ⅱ．位置と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
（１）地理的環境
（２）歴史的環境
Ⅲ．福童町遺跡８の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・4
Ⅳ．調査成果のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・10

挿 図 目 次

第１図　小郡市の地形図・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
第２図　調査区周辺遺跡分布図（S=1/25000）・・・・・ 3
第３図　調査区位置図（S=1/2500）・・・・・・・・・・・3
第４図　落とし穴状遺構・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
第５図　１号溝状遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
第６図　出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
第７図　福童町遺跡８　遺構配置図（S=1/250）・・・ 8・9

図 版 目 次

図版１　福童町遺跡８　調査区全景（直上から、写真上方が北）
図版２　①調査区全景（東上方から）
②本調査区と福童町遺跡３の位置関係（南西上空から）
図版３　①落とし穴状遺構土層断面（南から）
②溝状遺構土層断面（１）（東から）
③溝状遺構土層断面（２）（西から）
図版４　①溝状遺構遺物出土状況（１）（北から）
②溝状遺構遺物出土状況（２）（北東から）
③溝状遺構完掘状況（上空から）
図版５　出土遺物（１）
図版６　出土遺物（２）

Ⅰ．調査の経緯と経過

（１）調査の経緯

本遺跡の所在する小郡市福童字町 329-7 他は、小郡市役所都市建設部まちづくり推進課が主幹となる『市道小郡西福童 3081号線道路改良事業』の対象地となっている。この事業に関連して、平成17年度に福童町遺跡３（事前審査番号 05018、小郡市文化財調査報告書第 225集）の発掘調査を実施している。福童町遺跡８については平成18年10月30日に「埋蔵文化財の有無に関する照会」文書が提出され、福童町遺跡３の隣接地であり、試掘結果（事前審査番号06078）からも遺跡の連続が確実であったことから、小郡市教育委員会では開発に先立っては協議が必要であるとの回答を行なった。協議の結果、小郡市教育委員会がまちづくり推進課より予算の執行委任を受け、平成19年度事業として発掘調査を実施し、同年度に調査報告書を刊行することで同意を得た。

（２）調査の組織

調査に関わった組織と担当者は下記のとおりである。

＜小郡市役所都市建設部＞

部長　組坂弘幸（～H19.3.31）
　　高木良郎（H19.4.1～）
まちづくり推進課長　高木英治
施設・公園係長　弥永健俊
　　内村隆之（～H19.7.1）
　　川野哲司（H19.7.1～）

＜小郡市教育委員会＞

教育長　清武　輝
部長　高木良郎（～H19.3.31）
　　池田清己（H19.4.1～）
文化財課長　田篭千代太
係長　片岡宏二（～H19.3.31）
　　重松正喜（H19.4.1～）
技師　上田　恵

＜調査参加者＞　伊東みさ子　小川高征　田中賢二　林勢津子　森下弥寿治　山田和子
（以上小郡市在住、五十音順）

（３）調査の経過

発掘調査は平成19年4月から5月にかけて実施した。調査区はいずれもG.L.1.0～1.5mまでの近年の耕作土を重機で掘り下げ、その後人力で遺構の検出・掘削を行なった。以下に調査日誌より調査の経過の概略を記す。

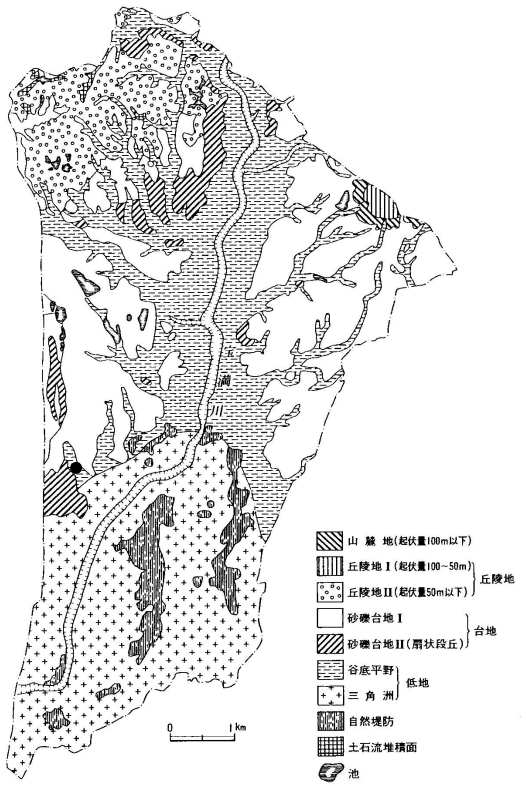
平成19年4月18日機材搬入、調査区表土の重機掘削　19日人力による遺構検出・掘削開始、落とし穴状遺構・焼土坑各1基、溝状遺構1条、ピット群を検出　27日溝状遺構を除く調査区内の遺構掘削完了　5月11日溝状遺構掘削完了　14日調査区清掃　15日全景写真撮影　21～23日遺構配置図・個別遺構図作成　24～25日重機による埋め戻し　25日機材撤収　28日現場引き渡し

写真１　調査風景（1 号溝状遺構掘削中）

Ⅱ．位置と環境

（１）地理的環境

小郡市域は北から南へ流れる宝満川によって二分される。右岸には背振山系から派生する丘陵（通称・三国丘陵）があり、これが南へいくに従って緩やかに下って平坦な台地へ移行し、筑後平野へと連なる。この台地は河川の侵食により舌状を呈し、それぞれが独立した形状を示している。本書で報告する福童町遺跡は、この台地上と台地間にある谷底平野にわたって展開している。



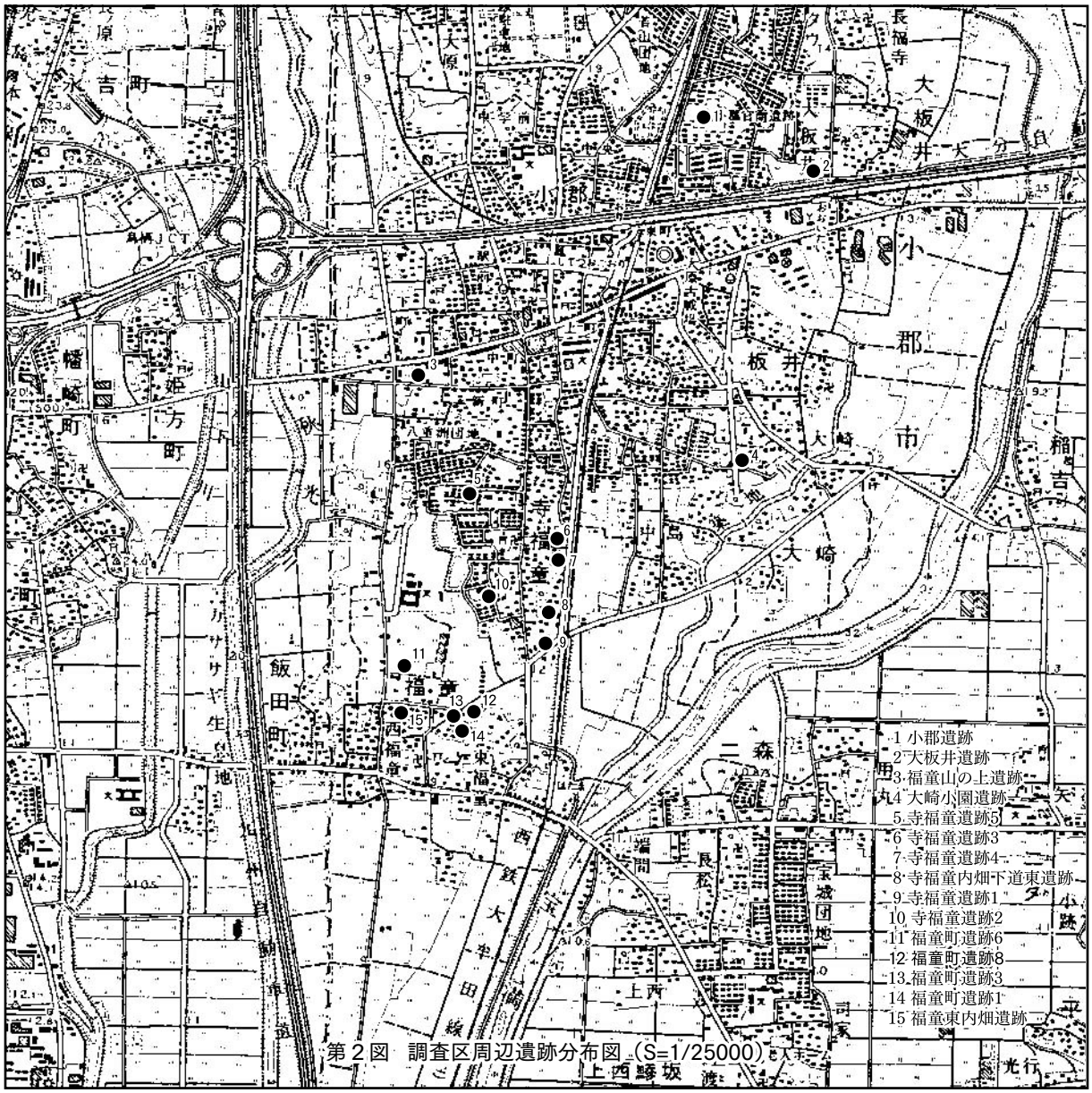
第１図　小郡市の地形図

（２）歴史的環境

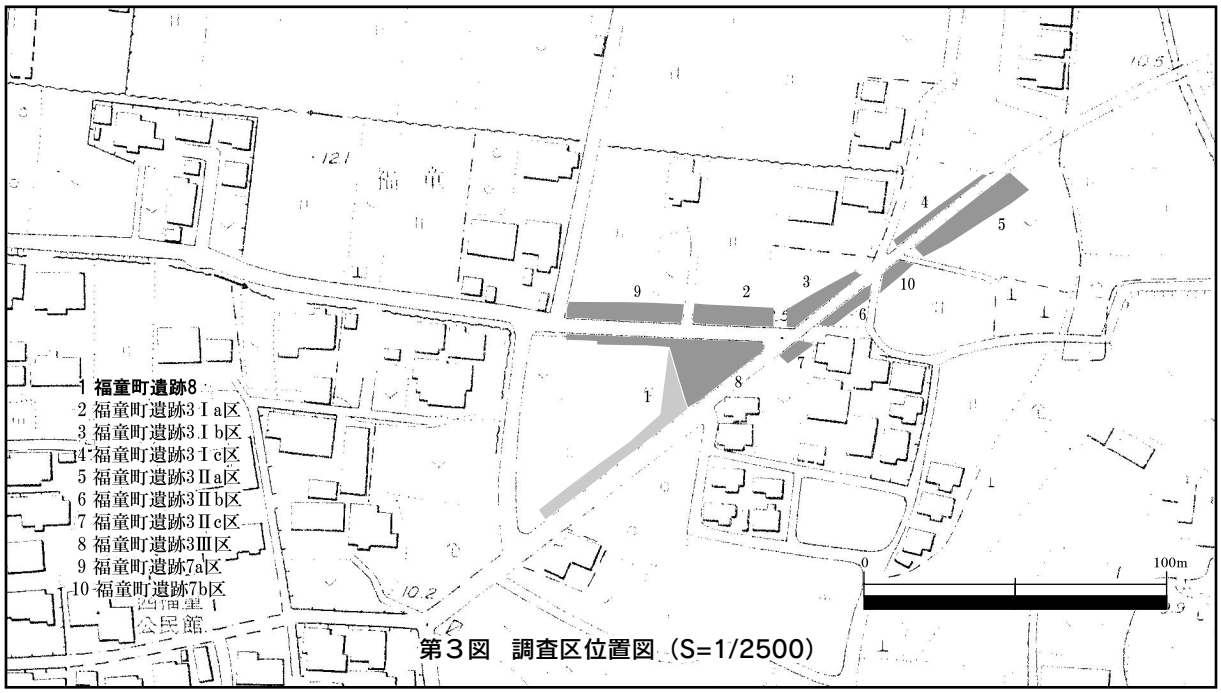
福童町遺跡は現在の西福童区の集落域と、その西側の水田地区にまたがって確認されている。西側約 300m には佐賀県鳥栖市・三養基郡基山町との県境（旧・筑後肥前国境）があり、律令制期にはこの境界に沿って西海道が設置された。「福童」の地名は「福同」あるいは「福堂」の文字で南北朝期の文献から登場しており、小郡市史においては中世戦記文学『太平記』に記された福童原合戦で著名である。東に隣接する大崎区では県道工事、北に隣接する寺福童区では宅地開発に伴って、近年頻繁に発掘調査が実施されているが、本遺跡の周辺も同様に道路改良工事に起因する調査事例が多く、考古資料からの歴史的様相の復原が進みつつある。以下、周辺地域に分布する遺跡を中心に、歴史的様相の概要を示す。

旧石器・縄文時代に関しては、福童町遺跡6（11）等で遺物は散見されるものの、明確にこの時代の所産と判断できる遺跡・遺構は未確認である。小郡市で本格的な集落経営が開始されるのは弥生時代からで、特に三国丘陵上と小郡（1）・大板井（2）において大規模かつ地域色の濃い展開を見せる。本遺跡の周辺では、寺福童遺跡5（5）で前期の木棺墓、中期の甕棺墓群が確認されている。また、寺福童遺跡4（7）では中期の銅戈埋納遺構が確認された。これらを形成した集団の集落は未確認であり、今後の調査に期待される。古墳時代に入ると、前時代の集落を継承する地域がある一方で、新たに外来系の要素を持つ集落が発生する。前～中期の集落としては、前者に大崎小園遺跡（4）、後者に古式土師器の出土した福童町遺跡1（14）が、墓域は方形周溝墓4基を検出した寺福童遺跡1（9）がある。後期～末期にかけては寺福童内畑下道東遺跡（8）で刀子・耳環を伴う土壙墓が、寺福童遺跡4では溝状遺構と竪穴住居群が確認されている。飛鳥・奈良時代には、小郡市域は筑後国御原郡と称され、寺院の性格も併せ持つ初期評衙とされる上岩田遺跡から、小郡遺跡（1）、下高橋官衙遺跡（大刀洗町）への全国的にも珍しい官衙の変遷を見せる。本遺跡の所在する地域では、寺福童遺跡2（10）・寺福童遺跡3（6）でこの時期の遺構・遺物を若干確認しているものの、集落の様相を復原するには至らない。但し西福童区は条里痕跡の残る地域であり、西海道との位置関係も踏まえると、今後の調査によってこの時期の集落が発見される可能性は高い。中世に関しては、福童山の上遺跡2・3（3）で掘立柱建物と溝が、福童山の上遺跡4（3）で道路状遺構と土坑、井戸が検出され、龍泉系青磁・白磁が出土している。近世は福童東内畑遺跡（15）で溝が検出され、肥前産陶磁器がまとまった量をもって出土している。

このように本遺跡の周辺では、若干の資料の欠落があるものの、弥生時代以来ほぼ連綿と人間生活の営みが続けられてきたことが明らかになっている。



第２図　調査区周辺遺跡分布図（S=1/25000）



第３図　調査区位置図（S=1/2500）

Ⅲ．福童町遺跡８の遺構と遺物

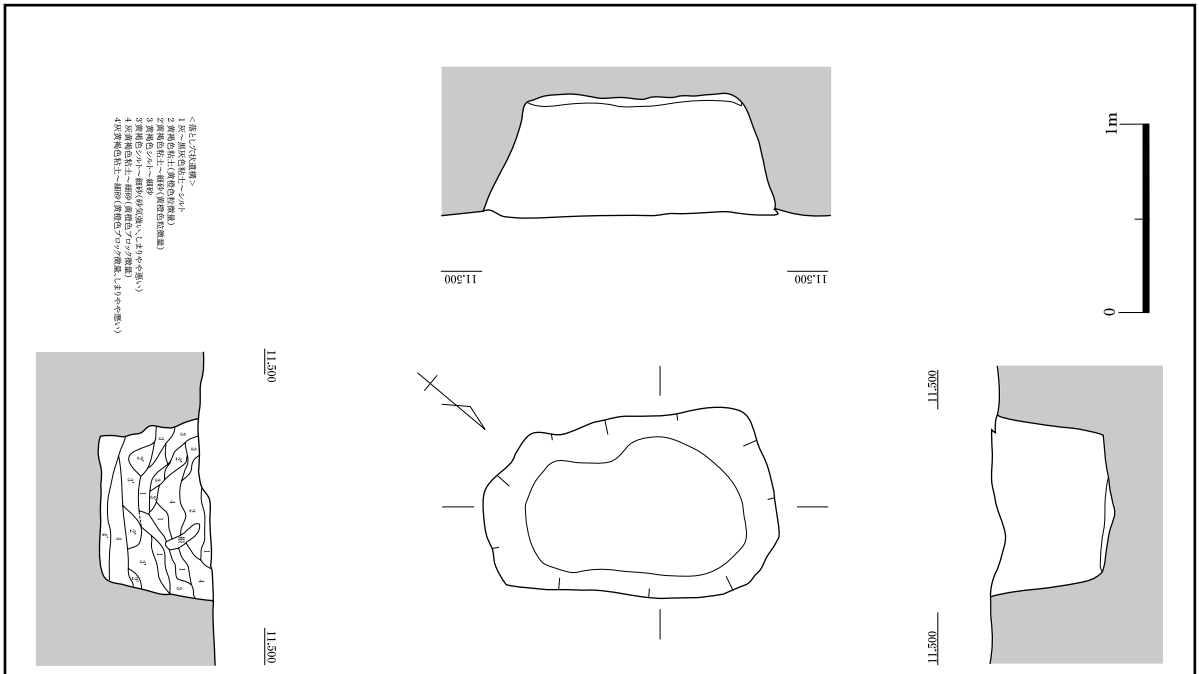
調査区は、既調査区である福童町遺跡３に西接する、約530㎡の区画である。東側の一部は上記遺跡の調査区と重複する。調査区内は標高10.7～11.5mを測る。東寄りの三角形の区画はほぼ平坦な地形で、そこから西へ延びる帯状の区画で緩やかに傾斜して下降する。遺構掘り込み面は褐色ローム層（基盤層）で、上面には黒ボク土の堆積を確認している。この層に遺物は含まれず、また、標高の低い西側へ向かって徐々に堆積が厚くなる。

写真２　福童町遺跡周辺

福童町遺跡８においては、落とし穴状遺構1基、溝状遺構1条、ピット群を検出している。遺物は溝状遺構を中心に出土しており、他ピット群にも細片が散見される。調査区中央～北東にかけては、樹木抜痕が多量に残り、遺跡を破壊している。ピットの多くは不整形で浅く、調査区内で掘立柱建物の存在を示唆するものは確認できなかった。また、東接する福童町遺跡３で検出されたピット群とともに建物を構成すると考えられる掘り込みも認められなかった。多くは後世の植樹痕と考えられる。なお、本遺跡で検出した溝状遺構は、福童町遺跡３で検出されたものと同一の遺構が連続するものである。

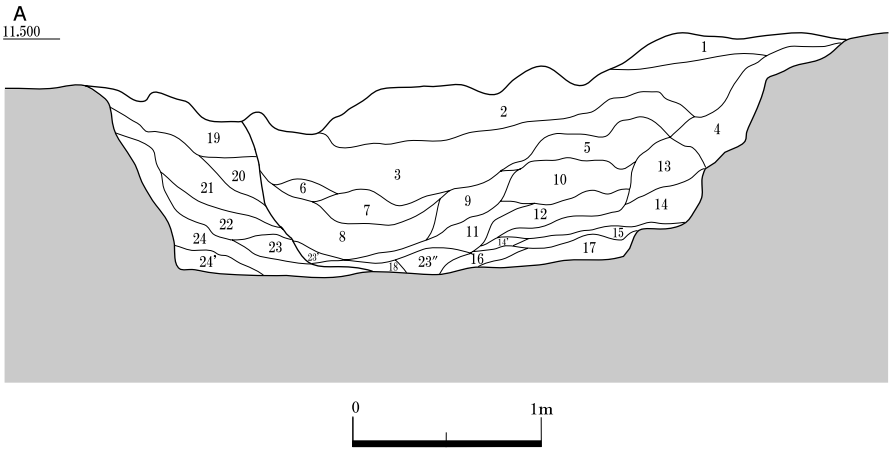
落とし穴状遺構（第4図、図版3－①）

調査区南西で検出した。長軸1.5m、短軸0.95m、深さ0.6mを測り、不整楕円形を呈する。主軸方向は北西―南東である。埋土は黒灰色シルトと灰黄褐色粘土、地山崩落に由来する黄褐色粘土が互層



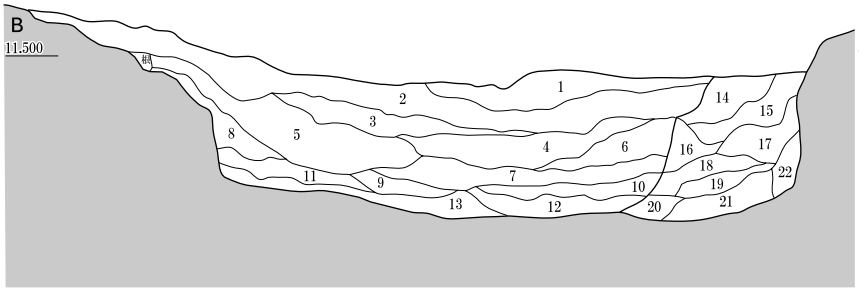
第４図　落とし穴状遺構

＜調査区西壁断面＞

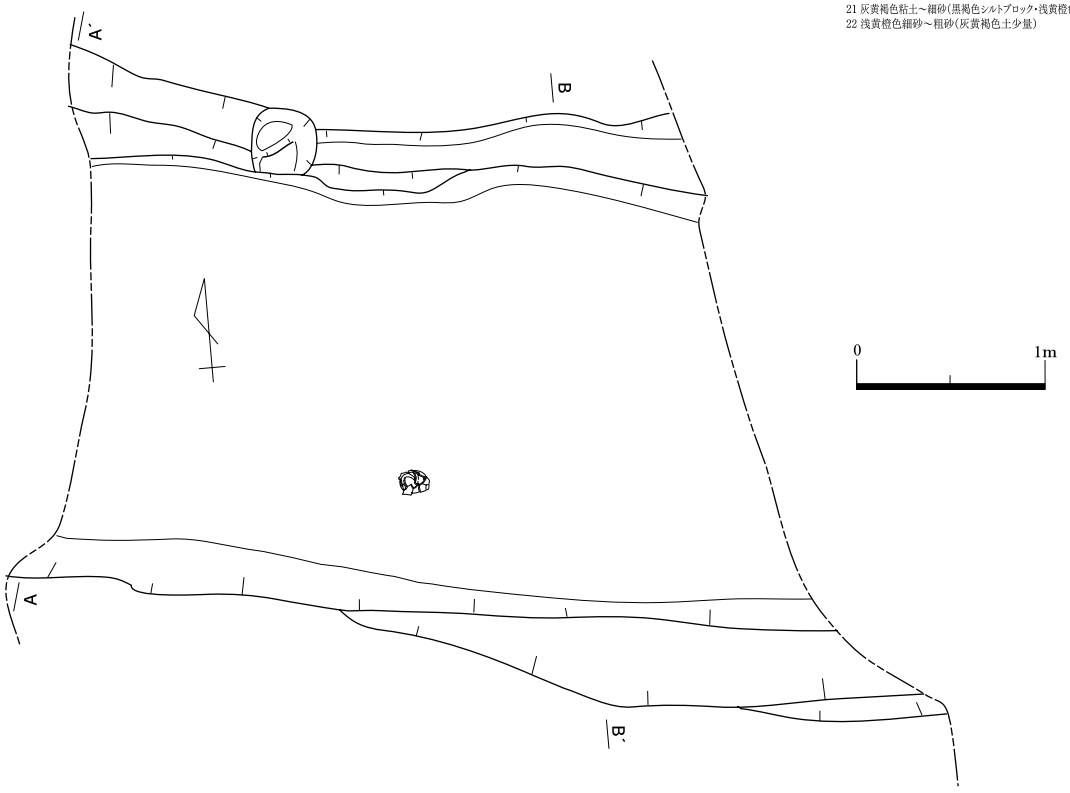


＜調査区西壁断面＞
1 黒褐色シルト～細砂(しまりやや悪い)
2 暗褐色シルト～細砂(細礫・黒褐色シルト極微量)
3 灰黄褐色シルト～細砂(細礫・黄褐色粒極微量)
4 褐～黄褐色粘土(壁面地山崩落土)
5 灰色シルト～細砂(細礫・黄褐色粒極微量)
6 灰黄褐～黄褐色粘土(ブロック状を呈する)
7 灰色粘土～細砂(細礫・黄褐色粒極微量)
8 灰黄褐色シルト～細砂(細礫・黄褐色粒微量)
9 灰黄褐～黄褐色シルト(黄橙色粒少量)
10 灰黄褐色シルト～細砂(細礫微量)
11 灰黄褐～黄褐色シルト～細砂(細礫・黄橙色粒中量)
12 灰色シルト～細砂(黄橙色粒少量)
13 灰色シルト～細砂
(細礫極微量、黄橙色粒およびブロック少量)
14 灰黄褐～黄褐色シルト～細砂(細礫・黄橙色粒中量)
14′灰黄褐～黄褐色細砂(細礫・黄橙色粒少量)
15 黄橙色粘土(黒褐色シルトブロック・灰黄褐色粘土ブロック少量)
16 灰黄褐～灰色粘土～細砂(黄橙色粒少量)
17 灰黄褐～黄褐色シルト～粗砂(黄褐色粒微量)
18 灰黄褐色シルト～細砂(細礫・黄橙色粒少量)
19 暗褐色シルト～細砂(しまり悪い)
20 灰黄褐色粘土～シルト(細礫・黄橙色粒極微量)
21 灰黄褐色シルト～細砂(細礫微量)
22 灰～灰黄褐色シルト～細砂(細礫微量)
23 暗灰色粘土～細砂(細礫・黄橙色粒微量)
23′暗灰色粘土～細砂(細礫・黄橙色粒微量、粘土気強い)
23″暗灰～灰色粘土～細砂(細礫・黄橙色粒微量)
24 灰黄褐色シルト～粗砂(細礫・黄橙色粒少量)
24′灰黄褐～黄褐色シルト～粗砂(細礫・黄橙色粒少量)

＜調査区東寄ベルト断面＞



＜調査区東寄ベルト断面＞
1 灰黄褐色粘質シルト(砂粒少量)
2 暗褐色粘質シルト(砂粒少量、焼土粒)
3 灰黄褐色粘質シルト(焼土粒)
4 黒褐色粘質シルト(炭化物・焼土粒)
5 にぶい黄褐色粘質土(砂粒・炭化物・焼土粒)
6 にぶい黄褐色粘質土(砂粒多量・炭化物・焼土粒)
7 黒褐色粘質土(焼土粒)
8 灰黄褐色粘質土(炭化物・黄褐色粘土粒)
9 灰黄褐色粘質土(焼土粒)
10 黒褐色粘質土(炭化物・焼土粒)
11 にぶい黄褐色粘質土(焼土粒・炭化物多量)
12 灰黄褐色粘質土(炭化物・焼土粒)
13 にぶい黄褐色砂質シルト(炭化物・焼土粒)
14 にぶい黄褐色シルト～細砂(細礫少量、黄橙色粒極微量)
15 灰黄褐色シルト～細砂(細礫少量)
16 黄褐～灰黄褐色シルト～細砂(細礫微量)
17 灰黄褐～灰色シルト～細砂(細礫少量、黄褐色粘土ブロック極微量)
18 黒褐～黒灰色粘土～細砂(細礫・黄橙色粒少量)
19 灰黄褐色シルト～細砂(細礫・黄橙色粒微量)
20 灰黄褐色粘土～細砂(細礫・黄橙色粒微量)
21 灰黄褐色粘土～細砂(黒褐色シルトブロック・浅黄橙色ブロック少量)
22 浅黄橙色細砂～粗砂(灰黄褐色土少量)



第５図　１号溝状遺構

となっており、自然埋没の様相を示す。土器片が出土しているが、微細なため時期等は不明、図示は控えた。遺構底面及び壁面において、杭等の打ち込み痕は確認できない。出土遺物から時期の特定はできないが、本遺跡と連続する福童町遺跡３や隣接する福童町遺跡においても同様の落とし穴状遺構が確認されていることから、同一段丘上に展開する一連の狩猟用施設と考えられる。

1号溝状遺構（第5図、図版3・4）

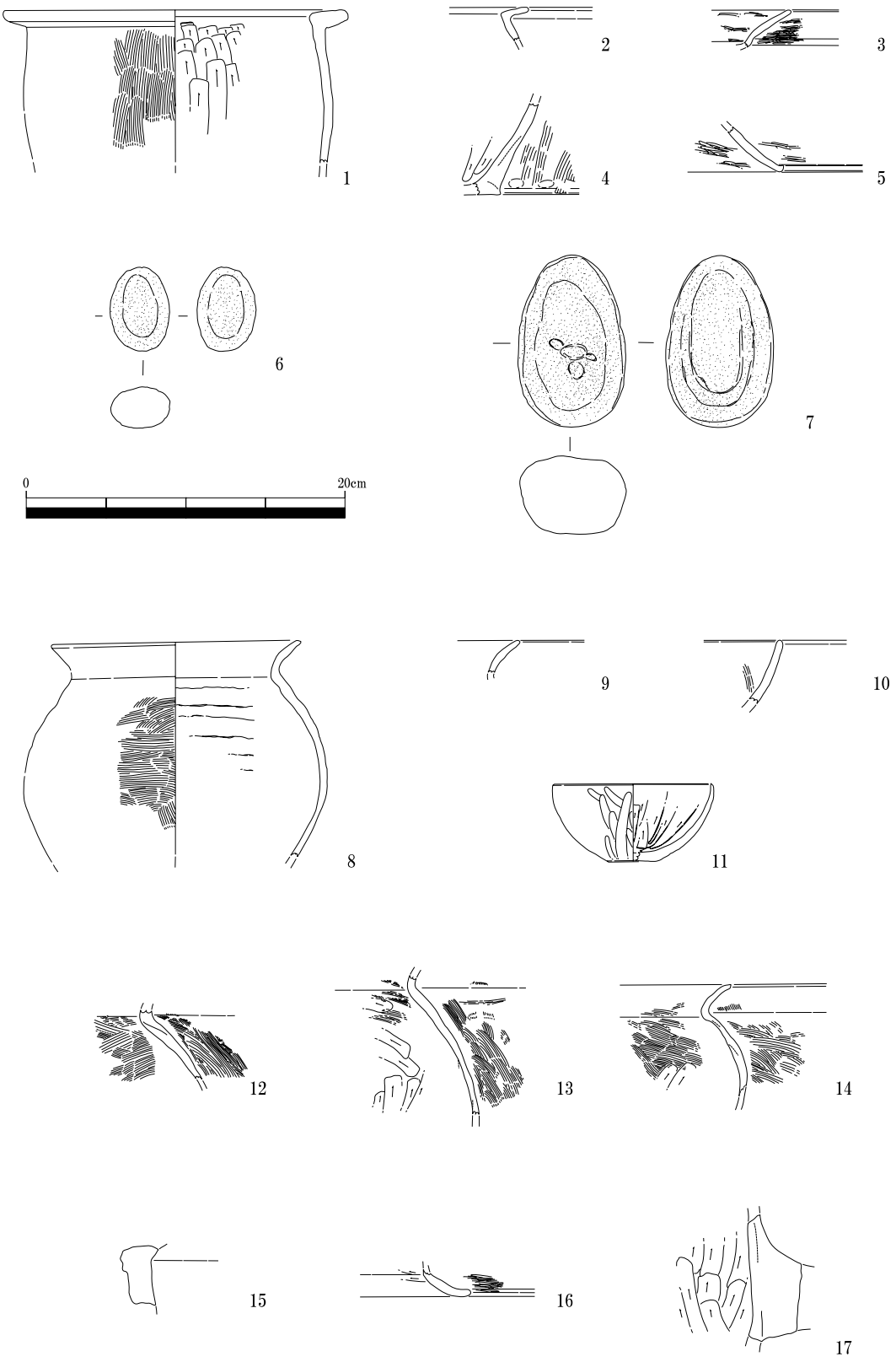
調査区北端を東西に流れる。埋土の状況から2時期に渡ることを確認している。旧溝状遺構は残存幅1.3m、深さ1.0mを測り、断面は台形を呈する。埋土は灰黄褐色シルトを主体とし、自然埋没の様相を呈する。埋土上層を中心に土師器片が出土している。新溝状遺構は幅3.4m、深さ1.2mを測り、断面は台形を呈する。北岸にテラス状の平坦面が見られる。埋土は灰黄褐色シルトを主体としており、上・中層からは土師器片が、下層からは弥生土器片が出土している。土師器は第5図に掲載した「調査区西壁断面」の14層及び「調査区東寄ベルト断面」の19層、弥生土器は「調査区東寄ベルト断面」の7－9層を中心に出土している。遺物は埋土全体にわたって出土したが、下層にいくに従って出土数が減少する傾向にあった。図示した調査区東寄ベルト断面では埋没状況が看取できるのみであるが、西壁断面では北寄りの中・下層の堆積状況から、部分的に複数回の掘り直しを行っていると考えられる。なお、この遺構は福童町遺跡３において検出されている溝状遺構が西に連続するもので、第5図に「調査区東寄ベルト断面」として掲載した土層断面図のうち、1～13層については同遺跡の調査時に「西壁断面」として測図されたものを使用し、14～20層については本遺跡の調査時に旧溝状遺構として確認した埋土の堆積状況を加筆して作成していることをここにお断りしておく。

出土遺物（第6図、図版5・6）

1は弥生時代中期末の甕。内面は下から上へのヘラケズリ、外面はタテハケを施す。浅黄橙色で胎土はやや肌理細かく、少量の石英・長石を含む。7－9層から出土。2は弥生時代中期末の甕の口縁部。端部外面にヨコナデ調整の痕跡が残るのみで、その他の調整は摩滅のため不明。浅黄橙色で胎土はやや粗く、比較的大粒の石英・長石を含む。南寄りの旧溝状遺構埋土からの出土。3は弥生時代後期末の高杯の口縁部。内外面に密なヨコミガキを施す。赤橙～橙色を呈し、胎土はやや肌理細かい。7－9層からの出土。4は弥生時代中期後葉の甕の底部。内面は指ナデ調整、外面はタテハケを施す。内外面は灰白色、断面及び底部外面は黒灰色を呈し、焼成は甘い。5は弥生時代中期後葉の高杯脚部片。内外面にヨコミガキを施す。表面の摩滅が激しいが、赤色顔料を塗布していた可能性が高い。浅黄橙色で胎土は肌理細かい。南寄りの旧溝状遺構埋土からの出土。8は古墳時代中期後葉の土師器甕。内面は粗い指ナデを施しているが、幅2㎝前後の粘土帯を積上げた痕跡が明瞭に確認できる。外面はヨコハケで一部黒斑が見られる。浅黄橙色で胎土は比較的肌理細かい。第5図に掲載した平面図上の遺物で、14層からの出土。9は古墳時代中期後葉の土師器甕の口縁部片。浅黄橙色で胎土は粗い。14層から8の甕と混在して出土。10は古墳時代中期末の杯片。橙色で胎土はやや粗い。14層から8の甕と混在して出土。11は土師器の杯。外面は指ナデのみの調整、内面に放射状にヘラケズリを施す。浅黄橙色を呈し、胎土は肌理細かい。14層からの出土。12は土師器の甕。内面にヨコハケ、外面にタテハケを施す。内外面とも灰白色を呈し、胎土はやや粗い。13は土師器の甕。内面は頸部のみヨコハケ痕跡を残してケズリ調整、外面はタテハケを施す。灰黄褐色を呈し、胎土は比較的肌理細かい。14は土師器の甕。内面は口縁部でナデ、体部でヘラケズリを施すが、前段のハケが明瞭に残る。外面はナナメハケ。赤褐色～浅黄橙色を呈し、胎土はやや粗い。

その他の出土遺物（第6図、図版5・6）

前述の遺構から以外にも若干の遺物が出土しているためここに挙げる。6は多孔質安山岩の投弾。7は多孔質安山岩の叩き石。両者はSP01からの出土。15は土師器の高杯片。赤褐色で胎土は比較的肌理細かい。摩滅により調整は不明。16は土師器高杯の脚部片。外面ヨコミガキ、内面ケズリ調整。赤橙色で胎土は精良。17は土師器の甑で橙色、胎土は精良。いずれも表土内からの出土。



第6図　出土遺物

第7図　福童町遺跡8

遺構配置図(S＝1/250)

Ⅳ．調査成果のまとめ

本遺跡の所在する西福童区においては、本書で報告した遺跡も併せて計9箇所で発掘調査が実施されている。ここでは、本遺跡で検出した遺構の状況とこれまでの調査成果を総合し、この地区の歴史的様相を概観したい。

西福童区内の調査において現在確認されている最古の出土遺物は、福童町遺跡４（市報告書226）SD08出土の縄文時代後期の土器片であり、人間活動はこの段階から開始したと想定はできるが、それを証明する遺構は未確認のため推測にとどまる。弥生時代に入ると、福童町遺跡４SD10に伴って弥生時代前期末の土器が出土しており、人間活動が開始したことが明確となる。

本遺跡において検出したSD01の埋土からも、弥生時代中期の所産である土器類が出土している。但しこの溝状遺構については、後述するように新・旧両段階とも古墳時代に機能した溝であると考えられる。また、それ以外に同時期と判断できる遺構・遺物は確認されていない。そのため現状の出土資料からは、この時期の集落の存在は可能性が述べられるに過ぎない。なお、時期は不明であるが落とし穴状遺構1基が検出されており、狩猟場という生産域として土地利用がなされていた可能性もある。

古墳時代に入ると、福童町遺跡１（市報告書203）において集落域が形成されることが確認されている。ここでは古墳時代前期の竪穴住居群及び溝状遺構、中～後期の竪穴住居群が検出されており、継続した集落経営が実施されていたことが明らかになっている。特に前期の集落は大枠を環濠（SD01）で、集落内部を小溝（SD02）で、2段階の区画をもって成立していたようである。この集落は西側への延長が福童町遺跡３（市報告書225）の調査によって確認されている。

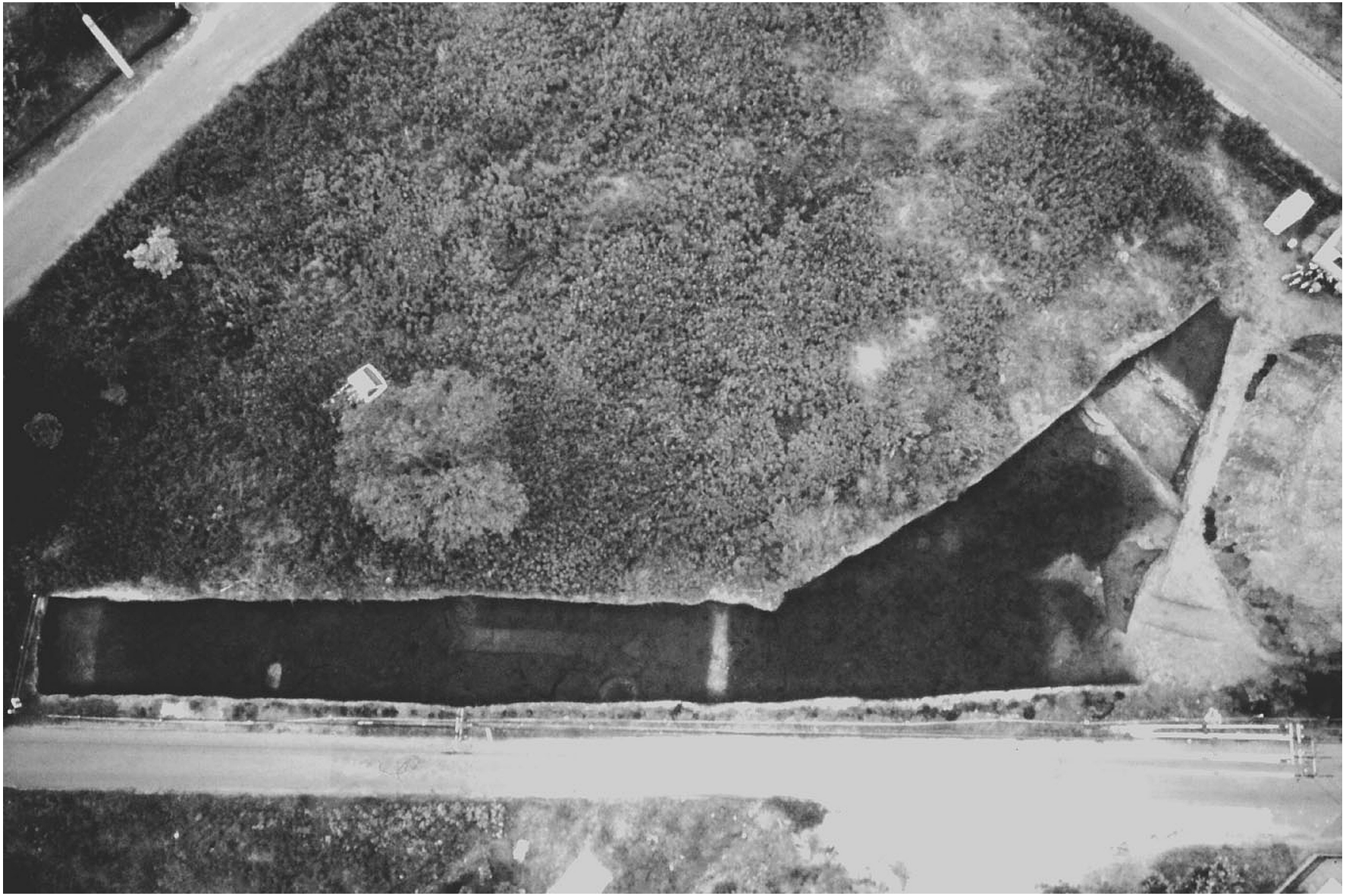
本遺跡においてはこの時期の遺構としてSD01を検出している。SD01は新段階において、埋土中層に弥生土器が一定のまとまりをもって出土する層位があるものの、埋土全体から出土する遺物は土師器を主体としている。また旧段階の埋土上層からは、原型を保った土師器甕（第6図・8）が出土していることから、新・旧両段階の溝状遺構ともに実際に機能していたのは古墳時代前期～中期末と考えられ、位置関係も踏まえて、福童町遺跡１で検出された環濠が連続したものと考えられる。また本遺跡の調査区内から竪穴住居は検出されていないことから、この溝状遺構が集落域の北・西の境界を示すものであると判断できる。またこの竪穴住居群は北・東へも広がりを見せておらず（市報告書237）、集落の中心は現在の宅地部分に展開していたようである。

古代から中世にかけての遺構・遺物は、本遺跡の北北西（市道・下町西福童16号線沿線）に集中している。福童町遺跡２（市報告書207）・４で奈良時代の遺物を伴う溝状遺構、福童町遺跡６（市報告書226）で平安時代の遺物を伴う溝状遺構、福童町４・６で鎌倉時代の遺物を伴う溝状遺構がそれぞれ検出されているほか、国道500号線に北面する福童山の上遺跡（市報告書75・100・114・170）においては溝状遺構とともに柵列・掘立柱建物・井戸状遺構が検出され、集落の存在を示している。

本遺跡においてもこれらの時期の遺構・遺物は確認されておらず、集落域が現在の西福童区集落から北へと移行した可能性を示唆している。但し、市道・下町西福童16号線沿線の遺跡で検出された遺構群は、集落の中心ではなく境界を構成すると想定されるものが多いことから、集落域そのものは未調査の水田・宅地部分に存在すると考えられる。

近世に入ってもこの傾向は続き、福童東内畑遺跡（市報告書226）に代表されるように、中世の遺構・遺物が出土する遺跡に近世の遺構・遺物が混在する状況が確認されている。一方古墳時代の集落が形成された本遺跡の周辺は、福童町遺跡３の溝状遺構以外には中・近世の遺構が極めて希薄であり、生産域としての土地利用がなされた可能性が高い。事実、西福童・東福童両区は田畑の比率の高い地域であったことが文献資料からも判明している。

今回報告した調査もそうだが、近年の発掘調査は極めて狭い面積を対象としており、そこから得られる個別の情報も断片的なものである。今回ここで述べた歴史的様相についても、周辺遺跡の状況を踏まえた推測の多いものではあるが、今後周辺地域の調査の進展により、さらに詳細な集落範囲の確定、構成要素の抽出、そしてその時代変遷といった歴史復原が可能になることを期待したい。



福童町遺跡８　調査区全景（直上から、写真上方が北）

図版２

①調査区全景（東上方から）

②本調査区と福童町遺跡３の位置関係（南西上空から）

①落とし穴状遺構土層断面
（南から）

②溝状遺構土層断面（１）
（東から）

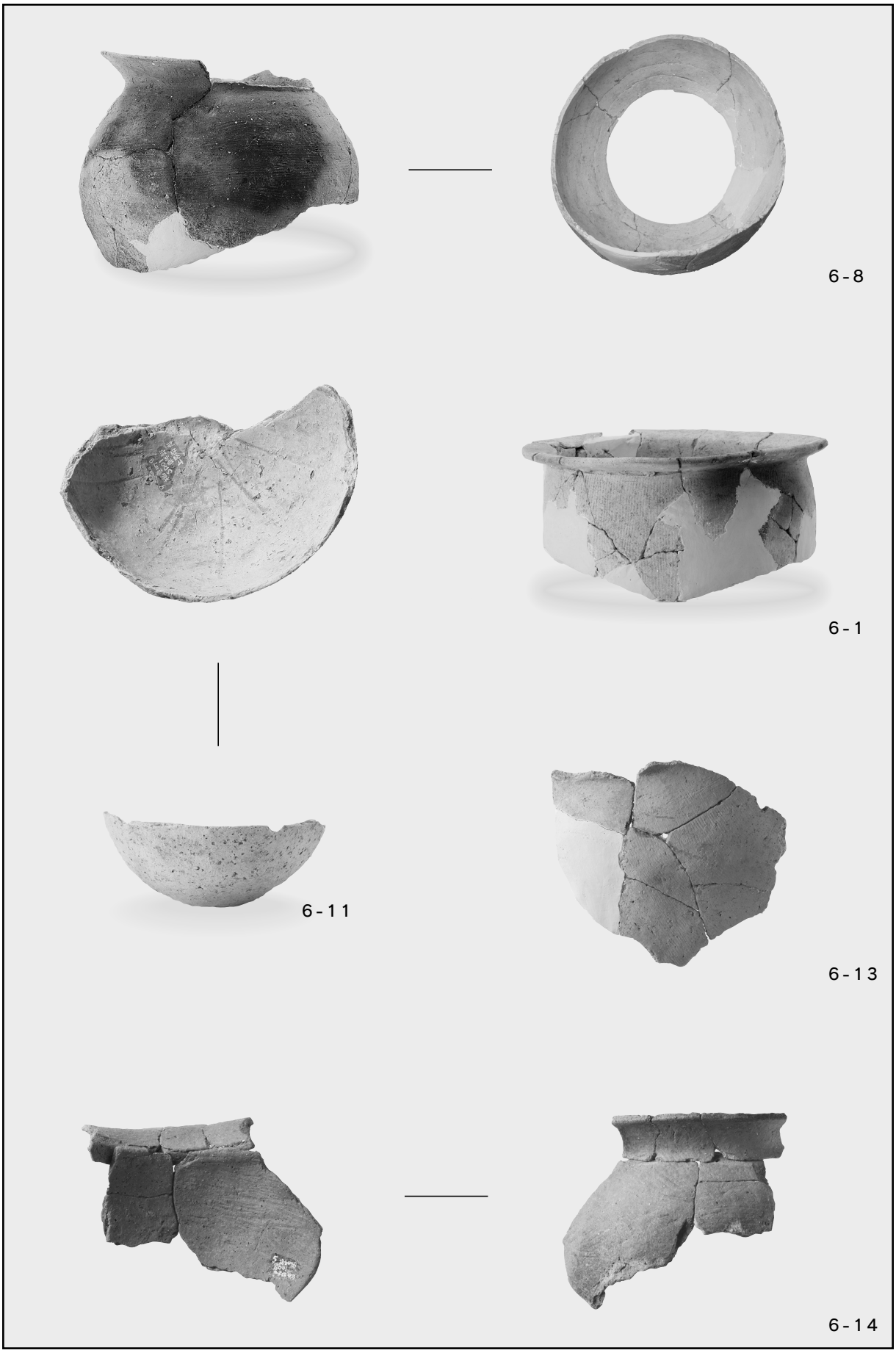
③溝状遺構土層断面（２）
（西から）

図版４

①溝状遺構遺物出土状況(1)
（北から）

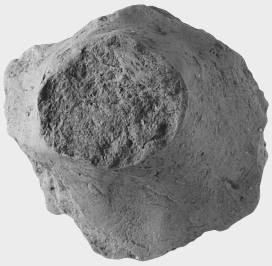
②溝状遺構遺物出土状況(2)
（北東から）

③溝状遺構完掘状況
（上空から）



出土遺物（１）

6-4



6-17

6-15

壁面出土土製品

6-6

6-7

出土遺物（2）

報告書抄録

ふりがな	ふくどうまちいせき
書　　名	福童町遺跡８
副 書 名	福岡県小郡市福童所在遺跡の調査報告
巻　　次	
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 240 集
編著者名	上田　恵
編集機関	小郡市教育委員会
所 在 地	〒838－0198　福岡県小郡市小郡 255－1　Tel．0942－72－2111
発行年月日	2008（平成20）年3月31日
保管場所	〔写真・図面・遺物〕小郡市埋蔵文化財調査センター
保管場所所在地	〒838－0106　福岡県小郡市三沢 5147－3　Tel．0942－75－7555

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	市町村 コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
福童町遺跡８ （ふくどうまちいせき）	小郡市福童 （おごおりしふくどう）	40216		33° 22′ 40″	130° 32′ 56″	20080416 ～ 2008	528 ㎡	道路改良 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
福童町遺跡８	集落	古墳	落とし穴状遺構 溝状遺構	弥生土器・石器 土師器	

福童町遺跡８

―福岡県小郡市福童所在遺跡の調査報告―
小郡市文化財調査報告書第 240 集

編集　小郡市教育委員会
　　福岡県小郡市小郡 225－1
発行　信光社印刷有限会社
　　福岡県朝倉市一木 32－1

小郡市文化財調査報告書第240集　福童町遺跡8